

株式会社フィックスターズ

2021年9月期 第1四半期決算補足説明資料

2021/2/12

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

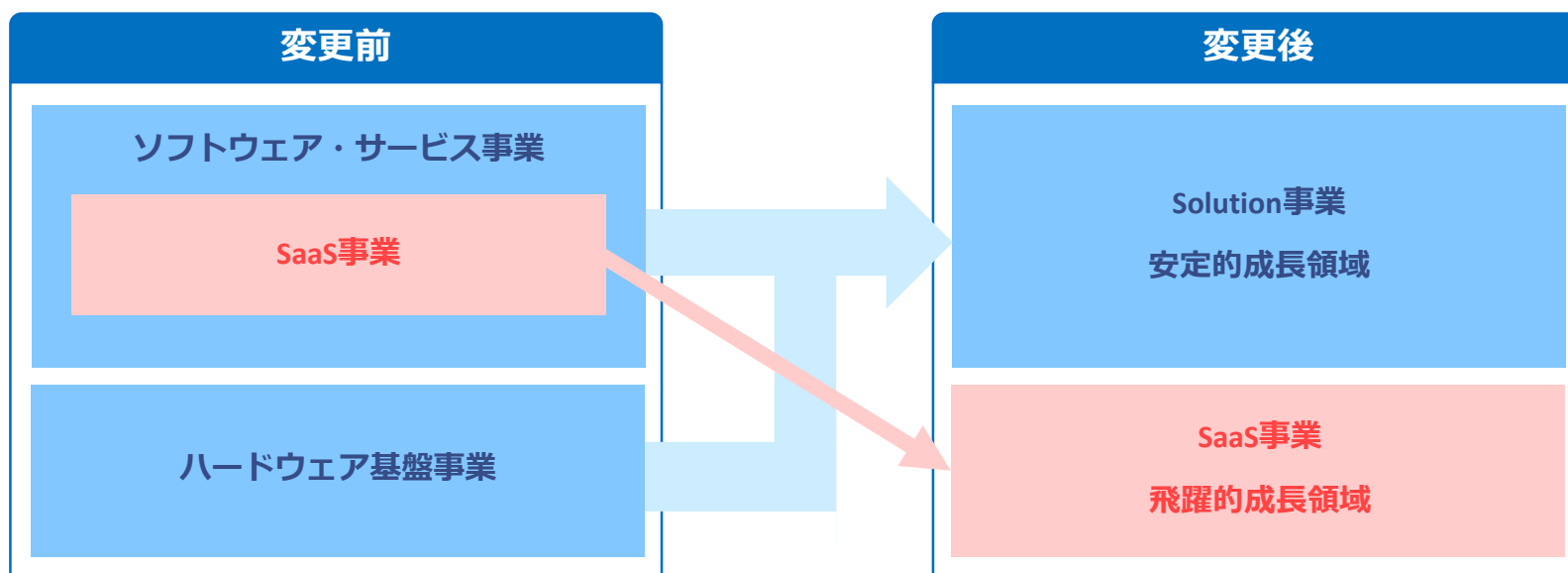
当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

1

2021年9月期 第1四半期 決算説明

・ 中期経営計画の遂行にあたり、SaaS事業の本格的な成長を見据える

- ・ Solution事業 : 主力の高速化ソリューションを推進
旺盛な需要を背景にした安定的成長
- ・ SaaS事業 : 新規SaaS事業の推進
従来のビジネスモデルから脱却し飛躍的成長



- ほぼ期初計画通りの推移、新規事業への積極的投資により減益

- 売上高 : 1,238百万円 (前年同期比 +4.2%)
- 営業利益 : 154百万円 (前年同期比 ▲11.2%)

- Solution事業は着実に事業を遂行

- 高速化サービスを中心に旺盛な需要
- エンジニアの採用にも注力

- SaaS事業は積極的投資を継続

- AIコードレビュー関連サービスを「Sider」にブランド統一
- エッジAIのクラウド開発環境「GENESIS DevEnv」、量子アニーリングマシンの実行基盤「Fixstars Amplify」の開発加速 (2Q～販売開始)

連結損益計算書

概ね期初計画通りの水準。

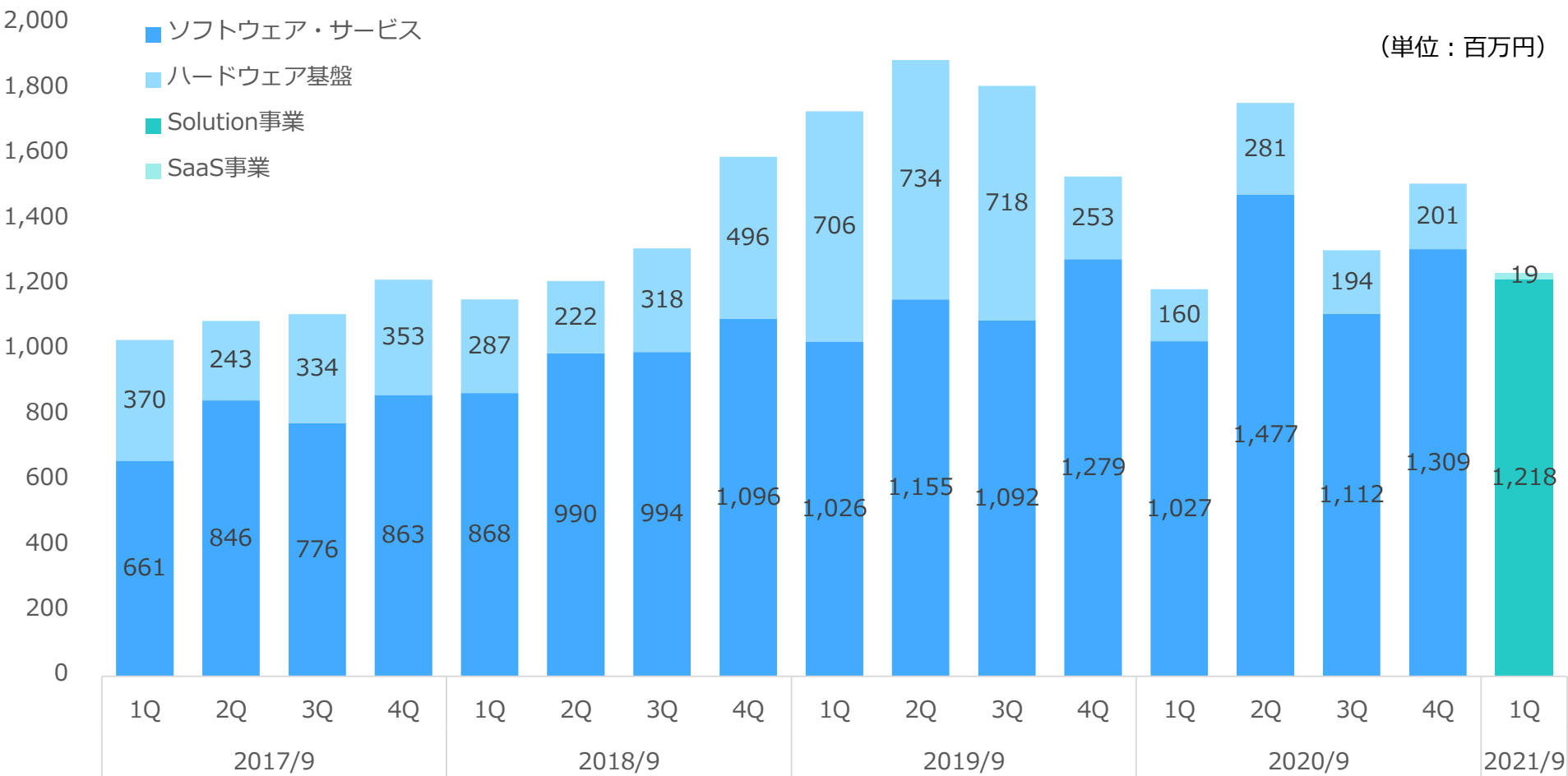
主力の高速化サービスが堅調に推移し前年同期比で増収も、SaaS事業への積極的投資により減益。

(単位：百万円)	2020年9月期1Q	2021年9月期1Q	
	実績	実績	前年同期比
売上高	1,187	1,238	+ 4.2%
営業利益	174	154	▲ 11.2%
売上高営業利益率	14.7%	12.5%	▲ 2.2pt
親会社株主に 帰属する当期純利益	97	81	▲ 16.5%
売上高当期純利益率	8.2%	6.6%	▲ 1.6pt

売上高

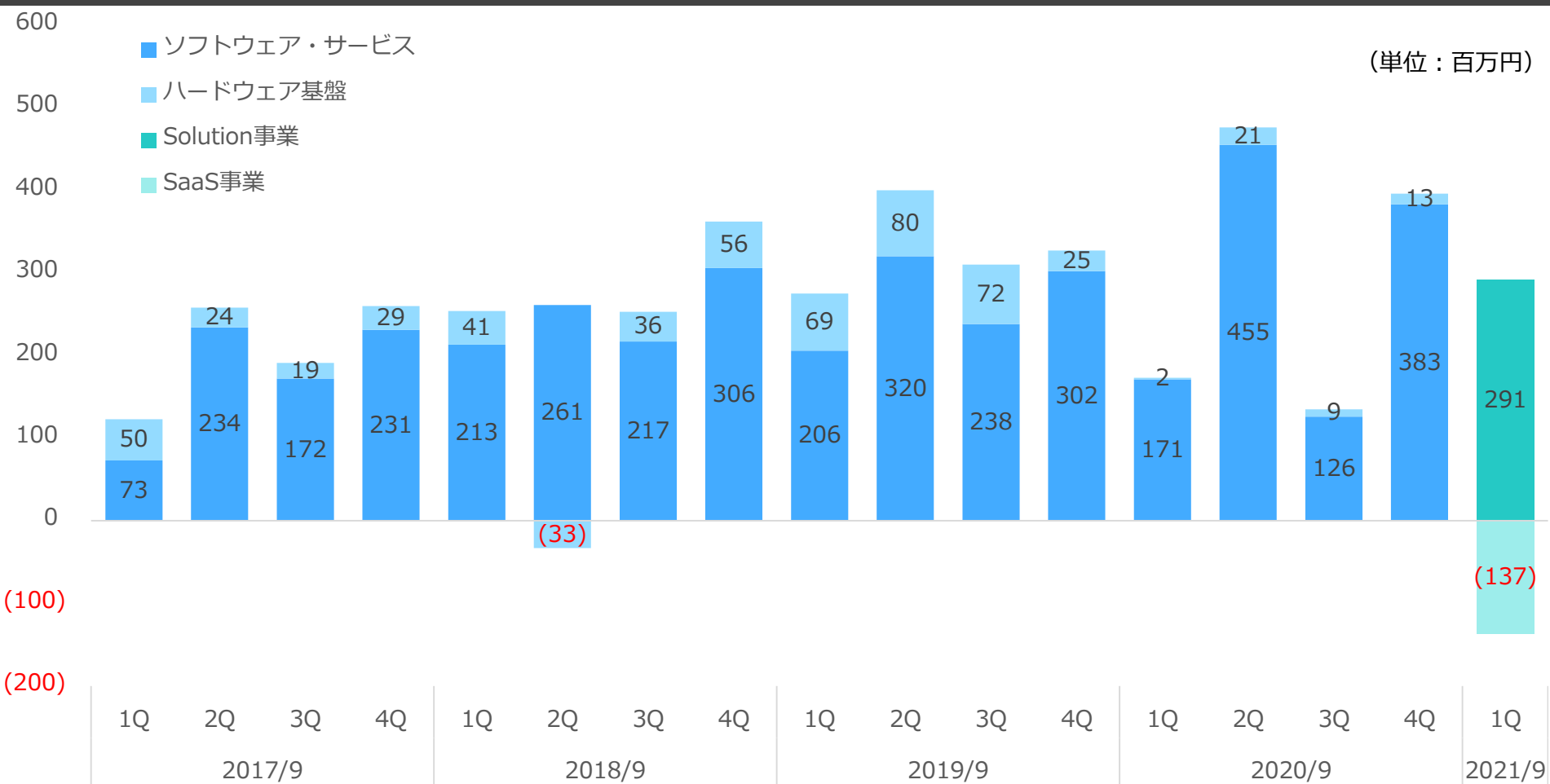
Solution事業の売上が大半を占める状況。

SaaS事業については今後の飛躍的成長を目指す。



営業利益

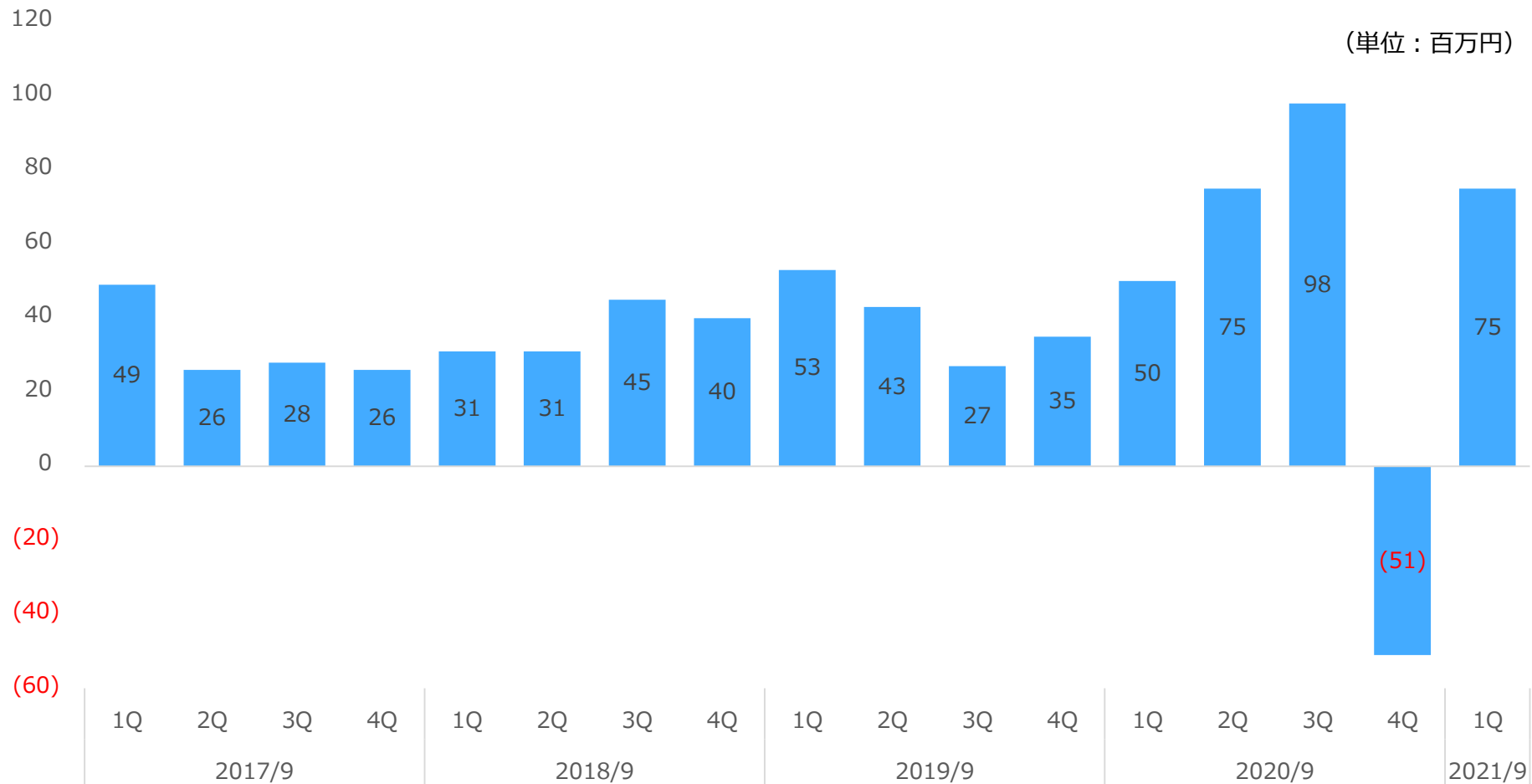
新規事業への投資により利益水準は低下も、概ね期初時点での計画通り。



研究開発費

新規SaaS事業向けの研究開発を継続。

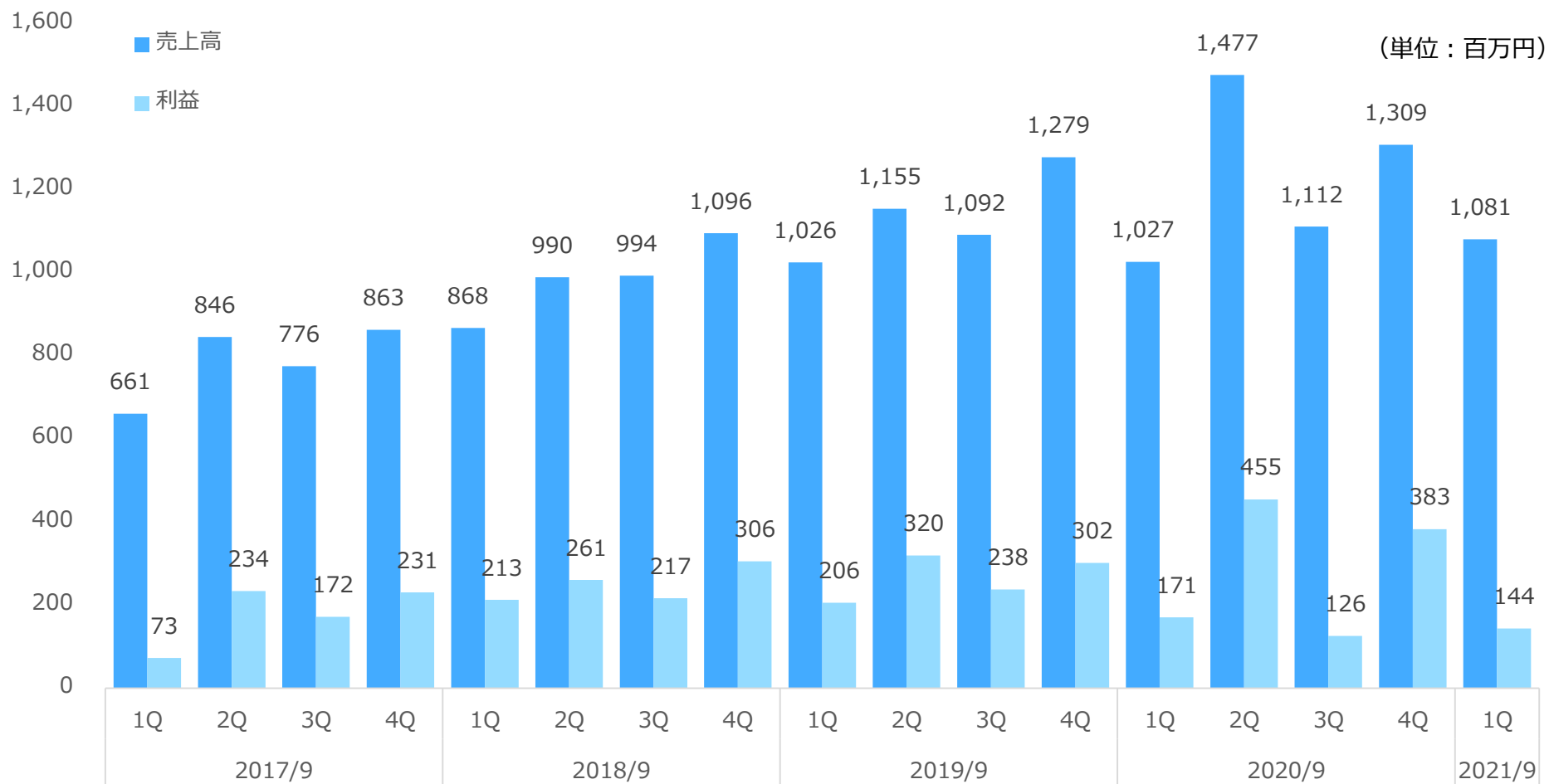
中長期の研究開発活動においてはNEDO等からの補助金を活用し、費用負担の軽減を図る。



(参考) ソフトウェア・サービス事業

人員増を反映し、前年同四半期比で増収。

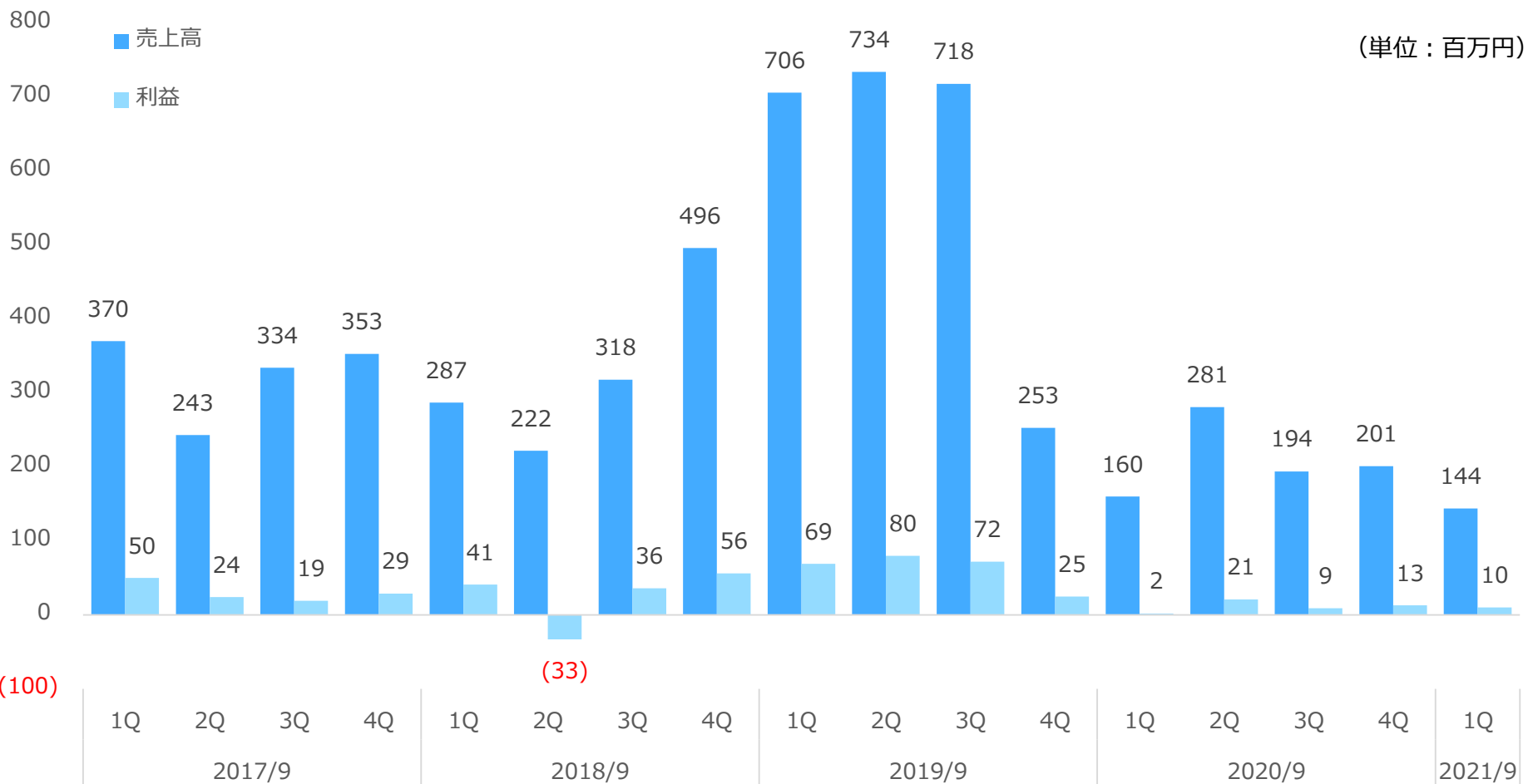
新規事業への投資により利益水準は低下。



(参考) ハードウェア基盤事業

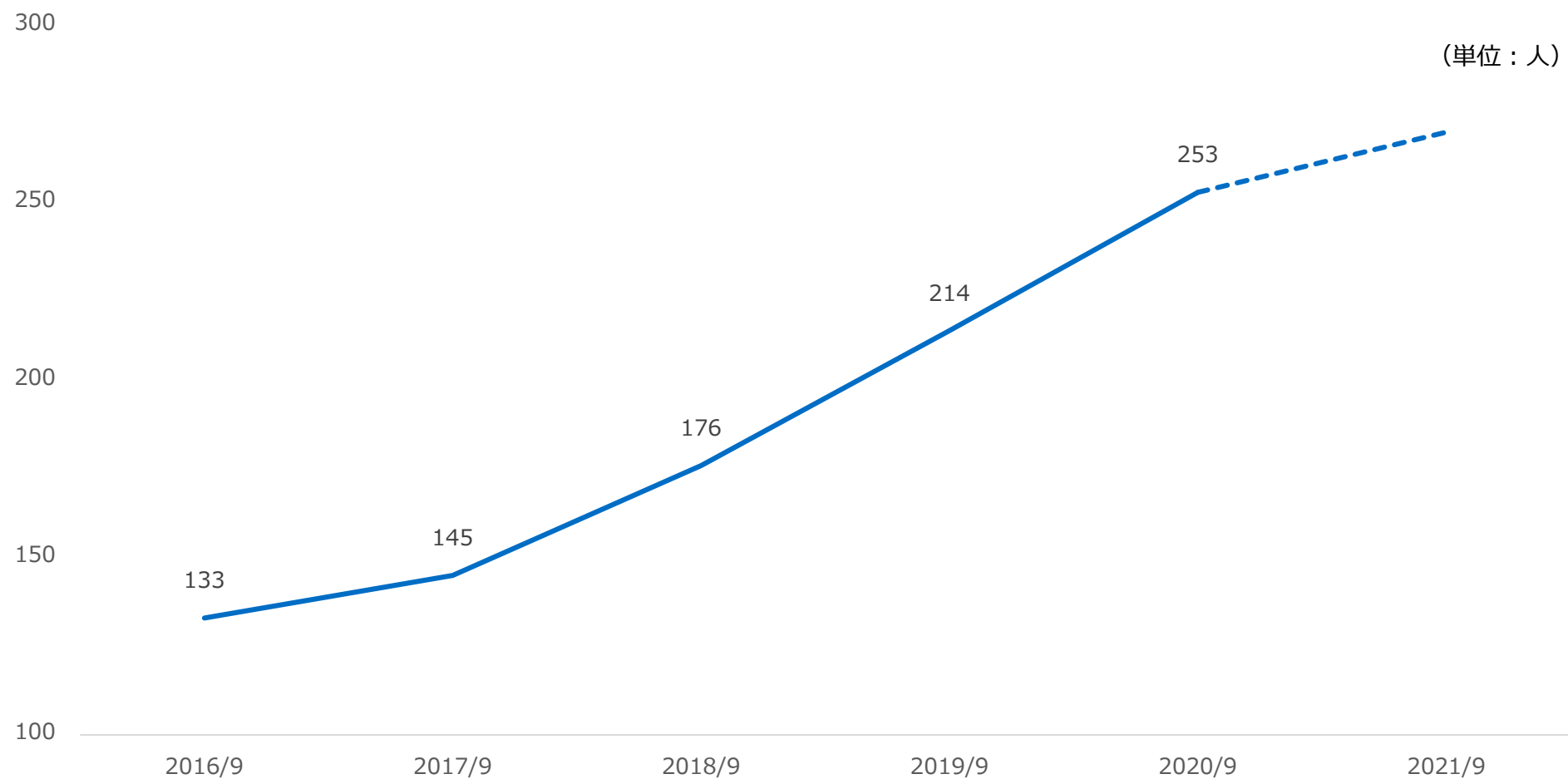
画像処理プロセッサ搭載演算ボードの量産販売が2021年3月のEOLに向けて収束傾向。

小規模ながらもFPGAボードや各種サーバ販売のスポット案件を継続的に獲得。



社員数推移

社員数の増加ペースは緩やかになる見込み。
2021年4月の新卒採用は10名超を予定。



2

2021年9月期 通期業績予想

- 主力の高速化ソリューション事業の堅調な推移を見込むも、
研究開発投資や本社移転による販管費増をうけ増収減益予想

- 売上高 : 6,100百万円 (前期比 +5.8%)
- 営業利益 : 1,000百万円 (前期比 ▲15.6%)
- 本社移転費用及び新規SaaS事業向け研究開発費を中心とした販管費増

- 今期よりセグメント区分を変更

- Solution事業 : 主力の高速化ソリューション事業にあたる
- SaaS事業 : 新規SaaS事業を推進する

- Solution事業は全体に堅調な成長を見込む

- モビリティ等を中心とした高速化ソリューションの旺盛な需要を取り込み安定成長
- SaaS事業のサービスを入り口とした受注を見込む

- SaaS事業は売上成長の開始フェーズへ

- 前期までの事業探索フェーズでの足固めを経て、売上成長の開始フェーズへ
- 各SaaS事業を順次スタートし、成長のための事業育成投資・研究開発投資を継続

連結損益計算書

モビリティ関連を中心とした高速化ソリューション事業の拡大により増収予想。
一方で、本社移転費用及び新規SaaS事業向け研究開発費を中心とした販管費増が見込まれ減益予想。

(単位：百万円)	2020年9月期	2021年9月期	
	実績	予想	前期比
売上高	5,764	6,100	+5.8%
営業利益	1,184	1,000	▲15.6%
売上高営業利益率	20.5%	16.4%	▲4.2pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	668	600	▲10.2%
売上高当期純利益率	11.6%	9.8%	▲1.8pt



補足資料

高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、コンピュータの性能を最大限に引き出し大量データの高速処理を実現する、高速化のエキスパート集団です。

概要

会社名	株式会社フィックスターズ
本社所在地	東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー18階
設立	2002年8月
上場区分	東証一部（証券コード：3687）
代表取締役社長	三木 聡
資本金	5億5,371万円（2020年12月現在）
社員数（連結）	253名（2020年9月現在）
主なお客様	キオクシア株式会社 株式会社日立製作所 株式会社ネクスティ エレクトロニクス キヤノン株式会社

グループ体制

株式会社フィックスターズ

株式会社Fixstars Autonomous Technologies

株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV
自動運転向けソフトウェア開発に特化

Fixstars Solutions, Inc.

100%子会社
米国での営業及び開発を担当

株式会社Sider

100%子会社
新規SaaS事業“Sider”を担当

株式会社Smart Opinion

プロディジメディカル株式会社とのJV
乳がんAI画像診断支援事業を担当

オスカーテクノロジー株式会社

連結子会社
ソフトウェア自動並列化サービスを提供

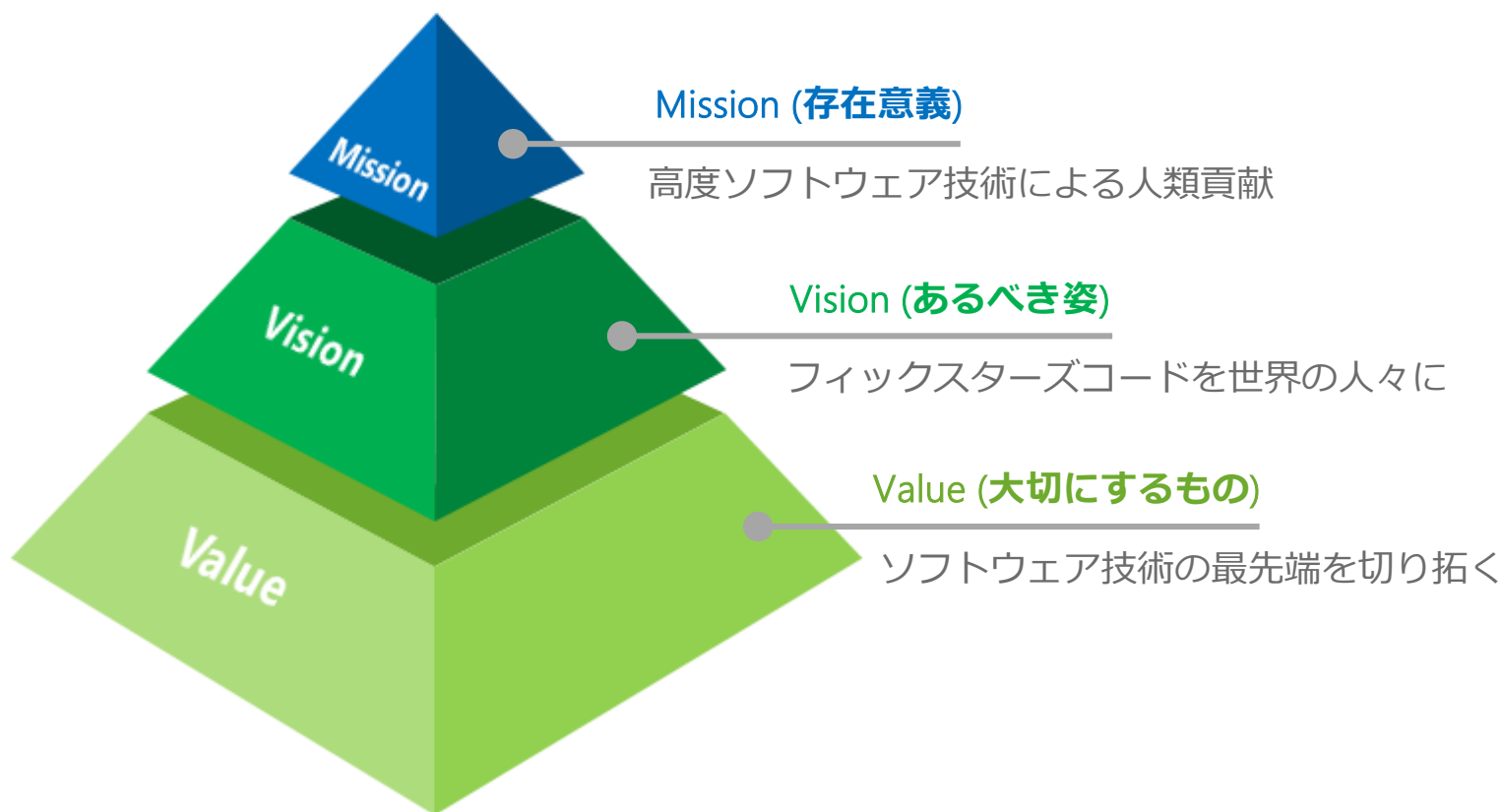
コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

年月	出来事
2002年 8月	神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更
2004年 7月	マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始
2006年 12月	PlayStation®3の発売を受け、「PS3® Information Site」を立ち上げ
2009年 12月	「OpenCL入門ーマルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版
2010年 11月	米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入
2012年 1月	NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始
2014年 4月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2016年 11月	東京証券取引所市場第一部に市場変更
2017年 6月	量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始
2018年 2月	自動運転分野のさらなる拡大を目指し、ネクスティ エレクトロニクス社と合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立
2020年 3月	自動並列化技術に強みを持つオスカーテクノロジー株式会社の株式を取得、連結子会社化

コンピュータの恩恵を人々に

コンピュータの性能を最大限に引き出す高速化技術を軸に、ESGをはじめとする人類社会の課題解決に貢献しています。



高速化技術による環境負荷低減

当社は、多様な産業分野に対する高速化ソリューションにより電力消費を大幅に抑え、環境負荷低減に貢献しています。

多様な産業分野における高速化ソリューション

Semiconductor

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・ 次世代AIチップ向け開発環境基盤の開発

Mobility¹

- ・ 自動運転の高性能化、実用化
- ・ 次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

Life Science

- ・ ゲノム解析の高速化
- ・ 医用画像処理の高速化

Finance

- ・ デリバティブシステムの高速度化
- ・ HFT(アルゴリズムトレード)の高速度化

Industrial

- ・ Smart Factory化支援
- ・ マシンビジョンシステムの高速度化

数倍～数百倍の高速化による
電力消費時間の短縮



Note: 1) 一例として、自動運転向け画像認識処理の高速化 (1車種) のみでも、2020年に約14,000トンのCO2削減が見込まれる (当社推計)

高速化に限らない様々な社会貢献

高速化ソリューションによる消費電力削減に加え、自動運転や医療等の様々な分野への支援により、環境や社会の課題解決に貢献しています。

当社事業領域

社会的価値



自動運転の高性能化、実用化
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

交通事故の根絶
交通弱者へのサポート



AIによる画像診断支援

より気軽により質の高い
診断・治療へのアクセス

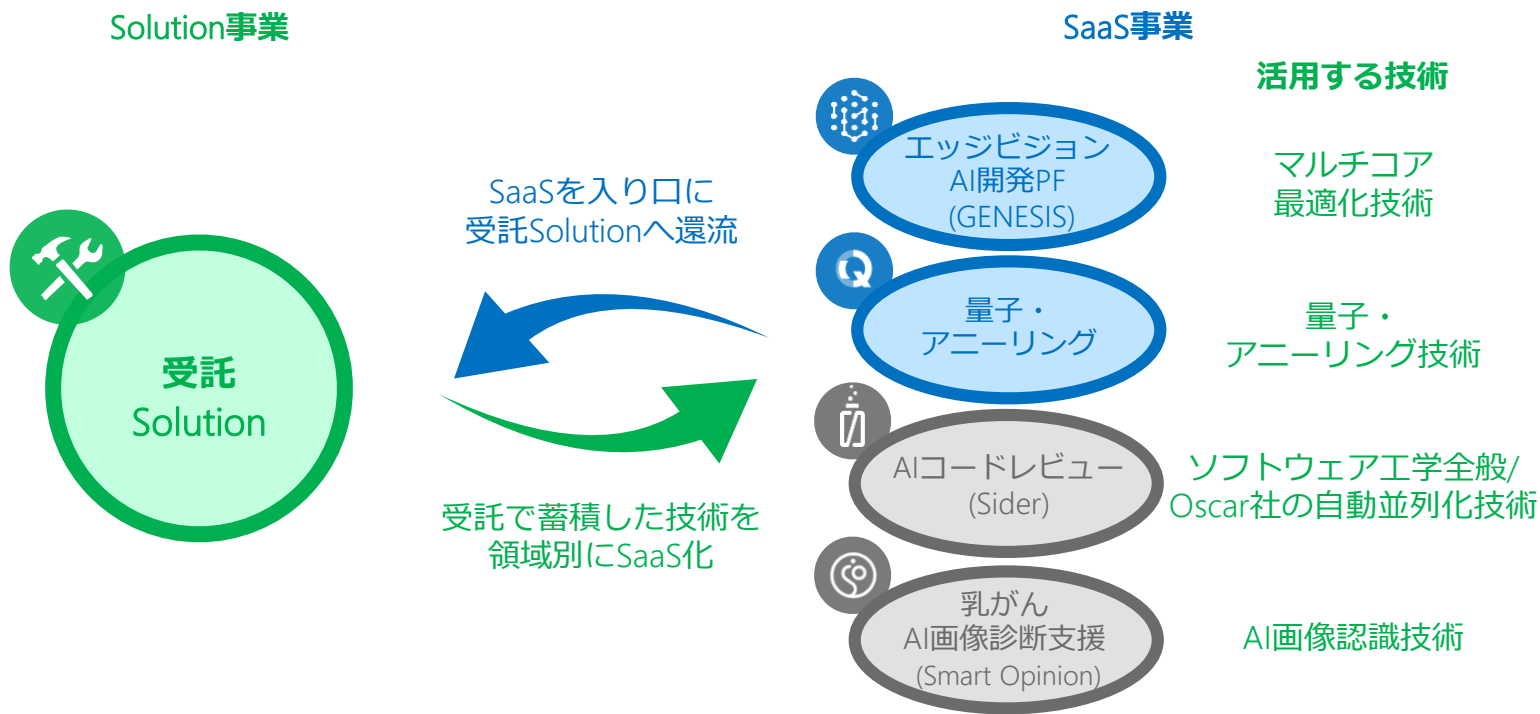


量子・アニーリングによる人員配置の最適化

働きがい向上
働き方改革への貢献

Solution + SaaS のハイブリッド収益モデルへの転換

当社が強みとする技術を領域別のSaaSに展開し、成功の確度を保ち、リスクを低減しつつ成長率の飛躍をねらいます。
さらに、SaaSを入り口として受託Solutionの受注にもつなげ、SolutionとSaaSのシナジーを構築していきます。



- 高付加価値・高単価の受託による高速化ソリューションの提供（人月モデル）
- 先端技術の蓄積により、成長領域において他社より先に案件を確保。安定的で着実に成長

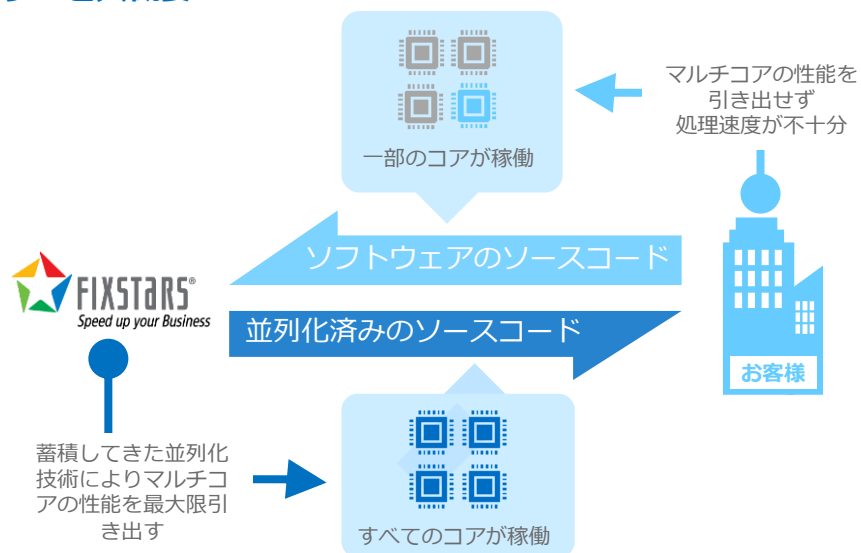
ビジネスモデル
当社の強み

- 高付加価値SaaSのリカーリングでの提供（継続課金モデル）
- 受託で培った技術を用い、初期投資とリスクが低減できる領域で展開。飛躍的成長を目指す

並列化による高速化ソリューション事業

当社事業の根幹をなすソフトウェア開発・ソースコード並列化による高速化ソリューションでは、コンピュータの性能を最大限に引き出すことで大量データの高速度処理を実現しています。

サービス概要



当社の蓄積してきた強み「並列化による高速化」

ムーアの法則¹が限界を迎え、マルチコアの時代にマルチコアの性能を引き出すには複数のコアに処理を分散するコードを記述する必要がある(=並列化)

事業ポテンシャル



組込みソフトウェア(国内)
市場規模(2019年)
6兆2,980億円²

うち当社シェア約0.1%

今後の施策

- 優秀なエンジニア確保のためのトップ大学へのブランディング
- 年2~3社の新規優良顧客開拓を行う
- 結果として、年率10~20%の成長を維持

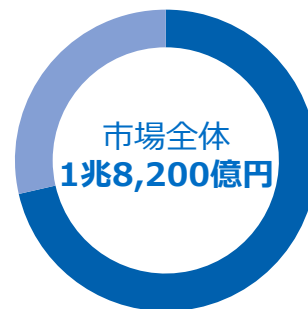
エッジビジョンAI開発プラットフォーム“GENESIS”事業

自動運転やFA等、様々な分野で利用拡大が見込まれるエッジビジョンAI/IoT向けの開発プラットフォームです。
アルゴリズムの構築から各種ハードウェア向け最適化、半導体回路生成まで数クリックでシームレスに行えます。

サービス概要



事業ポテンシャル



ターゲット市場規模 (2025年)
1兆8,200億円¹

- Services for Computer Vision
1兆3,000億円
- Software for Computer Vision
5,200億円

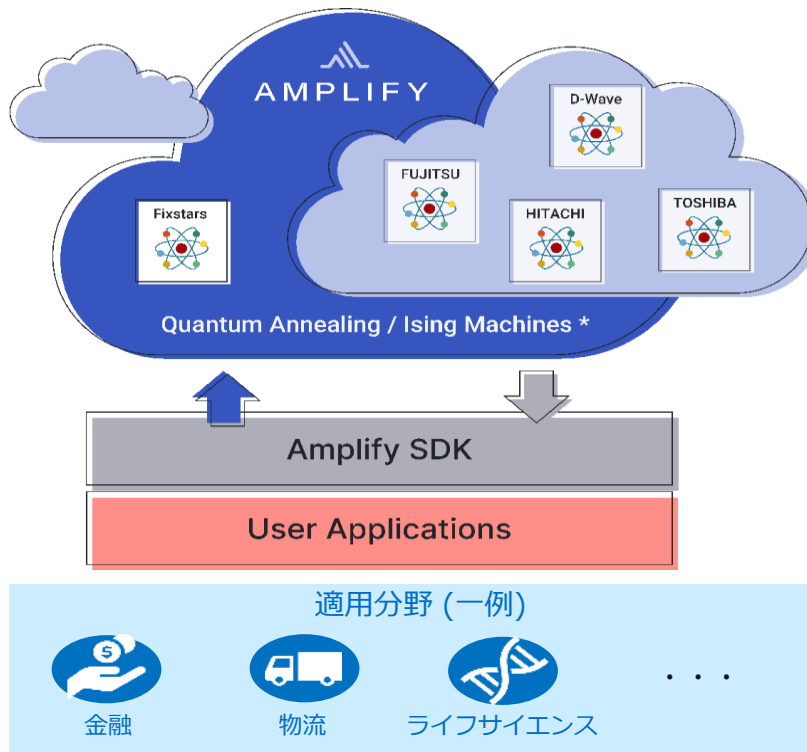
今後の施策

- 簡単にアプリケーションが作成できるようテンプレートを量産し開発者の取込みを推進
- サプライヤ向けにAI開発環境を整備し、ユーザ獲得と顧客サポートのサービスを提供
- 次世代のAIエッジビジョン/IoTのデファクト開発環境プラットフォームに成長

量子・アニーリング事業

多くのアニーリングマシンを透過的に扱うことができる、Fixstars Amplifyクラウドサービスを展開。
量子アニーリングコンピューティングのデファクトスタンダードを目指します。

サービス概要



事業ポテンシャル



ターゲット市場規模 (2027年)
4,400億円¹

- 国内 400億円
- 海外 4,000億円

今後の施策

- ☑ 組み合わせ最適化問題に特化した分野でSaaSサービスを立ち上げる
- ☑ 実運用事例を増やすべく大学や産業界と連携し、実社会問題を1つずつ解決していく
- ☑ アニーリングコンピューティングの開発・実行プラットフォームとしてデファクトスタンダードを目指す

Note: 1) ポストンコンサルティンググループ、CIRの予測を基にした当社による推定値

AIコードレビュー “Sider” 事業

ソフトウェア開発において、完成したコードを第三者の目でレビューする「コードレビュー」は必要不可欠となりつつあります。本事業では、AIによる自動のコードレビューを提供し、あらゆる開発プロジェクトの品質を劇的に向上させます。

サービス概要



コードレビューをAIのアシストにより効率化するサービス

具体的には...

コンピュータならではの網羅性で以下を実施



- より品質の高いコードの提案
- 潜在的なバグの発見
- 性能向上の提案

事業ポテンシャル



ターゲット市場規模 (2019年)
1兆5,000億円¹

- 国内 約500億円²
- 海外 約1兆4,500億円

今後の施策

- ソースコード分析エンジンをAIを用いてより賢くする
- 無料で手軽に試せるブラウザ駆動版でエンジニアをひきつけ、有償SaaSサービスのユーザ獲得に繋げる
- グローバルにサービスを提供し、世界シェアNo1を目指す

Note: 1) 当社による推定値 2) 世界のコードレビュー市場規模に、世界に占める日本のIT業界市場規模(約3.3%, SourceはGartner)を乗じたもの

乳がんAI画像診断支援事業

乳がんの超音波画像に対し、AIを用いて精密検査の要否を高速かつ高精度に判別し、医師の負担軽減を目指します。
乳がんの早期発見を支援し、がん発見後も総合的に患者さんをサポートするサービスを提供していきます。

サービス概要



Smart Opinion

(当社子会社)

超音波画像を学習データとした乳がんのAI診断支援システムを共同研究

国内9の病院・医療センター（慶應義塾大学医学部等）

今後の施策

- ☑ PMDA認可取得に向けて活動中。早期のサービス開始を図る
- ☑ クラウドでの診断支援サービスで、病院側での初期投資のないサービス提供を図る
- ☑ 超音波診断装置と連動したサービス提供を目指す

